

令和 3 年度

事業所名 : グループホームさくらの家 東ユニット

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101404		
法人名	盛岡医療生活協同組合		
事業所名	グループホームさくらの家 東ユニット		
所在地	〒020-0834 盛岡市永井19-37-5		
自己評価作成日	令和3年11月13日	評価結果市町村受理日	令和4年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>運営理念</p> <p>①「自分らしさを大切にそれぞれの美しい花を咲かせられるさくらの家」</p> <p>②「入居者様・地域の皆様が集って頂ける活気のあるさくらの家」を大切に入居者様が「その人らしく」過ごせるよう、夢、希望を叶える支援に力を入れています。コロナ禍で外出自粛が余儀なくされる中、入居様の夢や希望を伺い、ホーム内でも出来る事をスタッフで検討し行っています。地域活動への参加も限られていますが、地区の清掃活動に参加したり、広報誌などで地域への情報発信を継続。広報誌への反響も多く寄付の申し出や、散歩中の利用者への理解ある対応を頂いています。また、当法人は病院が母体であり、主治医、看護師、薬剤師、歯科医など多職種で連携し、入居者様の体調管理を行い速やかに対応しています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR東日本岩手飯岡駅近くの新興住宅地にあり、盛岡医療生活協同組合で運営する2ユニットの事業所である。運営理念に沿い、利用者一人ひとりの夢や希望を確認し「夢を叶えるプロジェクト」とし、職員が一丸となって夢の実現に取り組んでいる。運営推進会議の構成委員を通じて、利用者や職員及び地域住民等との活発な地域交流が図られているほか、毎年法人が実施している「家族アンケート」や「職員アンケート」に寄せられる多種多様な意見の改善に努め、質の高いサービスを実施している。職員の介護レベルの向上を図るため、コンピューターを活用したeラーニングの研修制度を導入し、身体拘束防止、接遇及び新採用研修等の広範囲な項目の研修を重ねているとともに、利用者の看取りに対しては、かかりつけ医や看護師等との緊密な連携のもとに、利用者や家族の意向に沿った積極的な支援に努めている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年12月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホームさくらの家 東ユニット

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホール、休憩室への掲示と、スタッフ会議資料へ記載し意識するように努めている。	事業所の運営理念「自分らしさを大切にそれぞれの美しい花を咲かせられる「さくらの家」」等を、玄関ホール、休憩室に掲示するとともに、会議の資料にも記載し意識づけを図っている。理念にあるように、利用者の意向や希望を把握し、「夢を叶えるプロジェクト」として実現に向け取り組みを行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	さくらの家祭りや、地区行事での交流が出来なかったが、広報誌を年に4回作成し回覧版に入れて頂いている。新聞紙やウエス等の寄付を頂き、地域の方に「頑張ってるね。応援してるよ」等と声をかけて頂いた。	町内会に加入し、清掃等の活動に参加している。事業所の広報「さくら」に、新聞紙やウエスの寄付のお願いを掲載し回覧版で回したところ、多くの物品と励ましの言葉を頂いた。事業所2階にある、地域包括支援センターで実施している「ウォーキングサロン」に、利用者も参加し地域の方々と交流している。事業所の運営理念の一つ、「入居者様・地域の皆様・ご家族の皆様に集っていただける活気のある「さくらの家」」の実現に向け、日々努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域清掃や廃品回収の参加、広報誌でのさくらの家の情報発信を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面開催となったがご意見を頂いている。文章だけでなく、行事の写真を見て頂く事で日々の様子がわかるように努めた。	利用者、利用者家族、地区自治会長、民生委員、児童館長を委員とする運営推進会議は、コロナ禍により、書面開催とし、案内と資料を自宅に届け手渡している。不在の場合は電話等で伝えている。資料には、事業所行事風景や利用者誕生日の状況を写真で提供しており、各委員から好評を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者がおり、生活福祉課ケースワーカーに相談や情報共有を図っている。ご家族より後見人の相談があった際は2階に地域包括センターの事務所があり連絡している。盛岡市から届くメールなどで情報入手し、各種届出などは直接出向くようにしている。	介護保険要介護認定の更新や区分変更は、家族からの依頼で管理者が市窓口に出向き申請している。介護保険担当課や福祉事務所とは、相談したり、情報を頂いたり連携が図られている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束禁止に取り組んでいる。身体拘束防止の学習会をしてベッド柵の適切な使い方などスタッフで共有している。ユニット入り口や玄関は施錠せず、利用者様が自由に出入り出来る様にしている。スピーチロック等1人1人が振り返り意識するように努めている。	法人全体で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束防止の学習会では、eラーニングでベッド柵の適切な使用方法など受講し、ディスカッションをしている。外部講師による接遇の研修では、電話の対応を具体的に学び、実践し相手方から対応を褒められている。スピーチロックに関しては、ミーティング等で一人ひとりがケアを振り返り、意識するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学習会を開催。組織として虐待防止に努め委員会を開催している。自分達のケアに対し日々の振り返りを行い、不適切ケアになっていないか意識を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業を利用している入居者様もおり訪問時に情報交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、わかりやすい言葉で説明する様に心がけている。料金改定など書類の取り交わし等がある際は、なるべく直接お会いして説明するお時間を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に4回広報誌を発行。ご家族様へは毎月日々のご様子を伝えるお手紙と共に、写真をお送りし喜ばれている。ご家族様へ連絡した際はご意見やご要望を伺ってケアに活かしたり、法人の利用者アンケートを実施し評価をスタッフ会議で共有している。	年に4回、写真満載の広報「さくら」を発行し、家族に送付しているほか、毎月、利用者毎に、日々様子を記述したお手紙に、写真を同封し送付しており、家族から意見や嬉しい感想を頂いている。毎年、法人が利用者満足アンケートを実施し、その結果を各事業所の運営、改善に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議、月2回のユニット会議を開催し、参加できないスタッフからも意見を聞き取りしている。職場目標や総括も各自振り返りを行い、意見を反映し作成している。	職員会議やユニット会議は、事前に議題を示し参加できない職員からも意見を聞いている。年度初めに、法人・ユニット・個人目標シートに基づき個人面談を行い、前年度の総括、個々の目標を設定している。年度半ばに、振り返りをし、各自目標の進捗を確認している。	

事業所名 : グループホームさくらの家 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠管理の徹底や、労働環境について議題にあげ、スタッフの心と体が健康で働き続ける様に環境を整えている。資格取得や個々にあった研修参加へのサポートを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部署内ではeラーニング、法人では通信教育に取り組みスキルアップに繋げている。新卒や中途採用者にはエルダー制度を導入し職員育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各種委員会や部会などに参加し、同業者との情報交換を行っている。法人で一斉に集まる学習会が難しくなった為、ズーム等を活用し、一律に受けられるように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時やさくらで生活する中で、出来るだけ本人に要望を伺いケアプランに反映している。傾聴した要望等はスタッフに周知しケアに活かせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族様から要望や不安点を傾聴している。入居者様のご様子に変化があった際は速やかに連絡し、状態を共有出来る様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お申込み時や契約時にお話を伺い必要な支援を提供できる様に努めている。入居後もご本人やご家族が困り事を相談できる様にケアプランにも取り入れています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除や洗濯たたみ、食事の盛り付けや食器拭き等、ご自身で出来る事は行って頂き、ホーム内でも役割を持って生活して頂いている。		

事業所名 : グループホームさくらの家 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙や写真等で様子をお伝えし、お会いできるご家族様には動画をお見せし喜ばれた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様からプレゼントや手紙が届いた際はご本人からお礼の電話が出来る様にお声掛けしたり、その様子を写真におさめお送りしている。	利用者の「夢を叶えるプロジェクト」で、服を買いに行きたい、誕生日ケーキ買いに行く、寿司食べたい、競馬に行きたい(男性)等、実現に向け職員が企画し進めている。県外の家族が、姑(利用者)の誕生日に、姑に教わったレシピどおりに作ったから揚げを持参し来訪している。コロナ禍以前は、家族を含め、直接面談できた友人と、現在はタブレットでの面会をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し、会話出来る様にしています。言葉や感情がうまく表現できない方にはスタッフが間に入り、入居者様同士の関係性を大切にお手伝いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい環境へ行かれた後や、お看取りした方のご家族様等へ、必要に応じ傾聴、相談に乗り継続的に関係性を保った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活している中でご本人のつぶやきを聞き、思いが反映できる様に取り組んだ。表現が難しい方にはご家族様から情報提供いただき、ケアや企画立案に活かしている。	利用者の思いや意向を把握し、実現するため、全利用者の「夢を叶えるプロジェクト」として取り組んでいる。ライブに行ったときの曲を覚えていたり、近くを旅してみたいと言ったり、新装開店の新聞広告をみて店に行ってみたいとの呟きには、家族の了解を得て実行できている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、以前利用していた事業所の方への聞き取りを行い、情報を共有している。ご自宅での愛用品などを居室に持ち込むなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	発した言葉や表情等、日々の様子を記録している。訪問看護師や主治医とも情報交換しながら状態把握に努めている。		

事業所名 : グループホームさくらの家 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットカンファレンスの際に見直しを行い、ご家族様にも状況をお伝えしながらプランへ反映している。主治医や訪問看護師にも身体状況を確認して頂き作成に生かしている。	介護計画は、介護支援専門員、管理者、計画作成担当者がチームで作成している。3か月毎に、ユニットカンファレンスを実施し、見直しをしている。作成した介護計画は、利用者のサインを貰うほか、家族から了承を得て確定している。居室担当者や職員は、毎日の生活記録を介護計画に沿って記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って日々の生活記録や注意して欲しい事などを記入し、情報共有を図っている。入居者様の変化に応じてプラン見直し等に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関りの中から得られる情報を共有しニーズに対応できる様に支援している。アルコールの提供やカリウム制限の料理、お誕生日に嗜好品の提供等を行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方より、新聞紙やウエスの寄付を頂いた。散歩中に認知症症状への理解を示し、地域の方のお力を借りたりした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にどんな医療体制が望ましいか確認している。現在は全員協力医と契約しているが、必要時皮膚科や歯科、精神科等の専門医への受診もスムーズに出来る様に心がけている。	入居時に、利用者、家族の希望により、事業所の協力医(訪問診療)がかかりつけ医となっている。歯科も協力医の訪問診療を利用している。精神科や皮膚科、などの専門医受診は、家族同行が基本であるが、家族不都合の場合、職員が同行し、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際に連携ノートを記入し日々の関りの中での気づきや変化を共有し、相談・助言を頂いている。24時間連絡体制が出来ており、必要時相談・報告を行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は相談員と連絡を取り、退院に向けての支援を行っている。退院時、薬コントロールや食事制限ある方には、主治医や薬剤師、管理栄養士と情報共有を図り、スタッフ間でも周知をした。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りケアについて指針を作成し、契約時や状態変化時に説明をしている。ご本人やご家族のお気持ちを聞きながら、ケアの統一を図った。さくらでの看取りを希望された方がおり、主治医と連携を取りながら対応した。	「重度化や看取りケアについての指針」を作成している。看取りについては、入居時に協力医が確認しており、状況変化時にも説明している。昨年は3名、今年は1名の看取りを行なっている。重度化の研修を実施しており、看取り後のカンファレンスや職員の心のケアの取り組みが充実している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故対応マニュアルを作成している。Eラーニングにて緊急時の学習を行い、スタッフで共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップを掲示し確認している。水害、火災、地震を想定し避難訓練を実施している。以前は地域の方にも参加して頂いていたが、今年度はコロナの影響で見合わせている。	市のハザードマップでは、災害の危険地域に指定されていないが、水害、火災、地震を想定し避難訓練を実施している。7月には、水害を想定し2階に避難する訓練を実施した。車椅子の利用者も、階段を使用しての避難の状況を確認している。火災は、消火器の使用訓練を予定している。ろうそく、電池、防寒毛布、冷凍食品等を備蓄しているほか、非常時の、近接の法人病院からの食糧支援体制が構築されている。	今後、薄暮や夜間の時間帯に暗さを伴った避難訓練を実施し、困難さの体験や課題の対応を検討し、災害対応の充実を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや表情など非言語を意識しお声かけをしている。申し送りの際は利用者様の名前が聞こえない様に、お手洗いの誘いは他者に聞こえない様に配慮しています。	プライバシー保護の研修を行なっている。利用者申し送り等の声が聞こえないよう、個人の話は部屋番号で伝えたり、トイレ誘導時は他に聞こえないよう心掛けている。利用者の子どもや配偶者のことなど、個々の家庭事情があり、プライバシーを損ねない対応に配慮している。	
----	------	--	--	---	--

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ側の一方通行な声掛けでなく、ご本人の思いを傾聴しながら自己決定できる様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の重度化によりスタッフのペースになる事があったが、業務内容を工夫しながら1人1人の生活リズムを大切に、ご本人の希望をうかがいながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に好きな服を選んでいただいたり、整容のお声掛けをしている。久し振りに髪の毛をカットし、喜ばれた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	さくらにいても季節を感じて頂ける様に、旬の素材を提供したり、手作りおやつを提供した。お誕生日のお祝いにはご本人が好きな物等なるべくリクエストに応えられるような対応した。咀嚼状況に合わせて素材の変更も行った。	献立を法人病院の管理栄養士が作成し、職員が調理している。季節を感じるよう、旬の素材を使用し、レタスはちぎって提供するなど、見た目や匂いに配慮している。誕生日には、利用者の好きなものを心掛けている。咀嚼状況に合わせ、ごぼうの形の練り物や肉の形のムースなど工夫している。差し入れの柿を、利用者と一緒に皮をむき、干し柿作りに取り組んだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事と水分量をチェックしている。その方の状況に合わせて、食べやすい硬さや大きさにしたり、お味噌汁やお茶にトロミをつけ対応した。水分がうまく取れない方には、味に変化をつけたり、ゼリーでの提供を試みた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは歯ブラシやスポンジ、歯間ブラシを活用しご本人の状態に合わせて支援している。義歯の不具合が発生した際は、歯科医に相談し口腔機能維持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に全入居者様トイレで排泄されている。排泄チェック表を確認し、排泄パターンの把握や排便コントロールをしている。	利用者は、車椅子使用の方も含め、全員、トイレでの排泄を支援しており、ポータブルトイレの使用はない。おむつ使用の利用者も、便座に座ることで有形便の排泄ができています。介護用品(リハパン、尿取りパット等)については、メーカーにより特徴があり利用者や家族と話し合い決めています。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便に効果が現れる様な食材を取り入れたり、水分補給を促している。便秘気味の方には訪問看護師や主治医に相談、指示を頂きながら苦痛なく排便出来る様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調やお気持ちに合わせてお誘いしている。入浴を希望されない方には気分転換を図り、時間をおいたり、スタッフを変えてお声掛けする等工夫している。	入浴は週2回を基本としているが、「今行きたくない」と利用者の意向には、時間をおいたり、職員を変えて声掛けするなど工夫し誘導している。介護度の高い利用者には、シャワー浴で対応している。同性介助に配慮している(女性は同性介助を選ぶ)。介助時、全身の観察をし、気づいたことは看護師に相談している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビが観たい方、お酒が飲みたい方等その方のリズムに合わせて入床いただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回薬剤師に配薬して頂いている。訪問時はご本人の体の状態や副作用について共有している。内服を希望されない方や、飲み込みが難しくなってきた場合は、処方内容の相談をし、安全に内服出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯、食器拭き等スタッフと一緒に頂ける様に支援している。体を動かすのが好きな方はリズム体操、編み物や切り絵に集中される方、手慣れた様子で果物の皮むき等、その方の役割や楽しみを持っていただける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で日常的な外出は出来ないが、天気の良い日は花を見に行ったり、サンデッキでシャボン玉をして外気浴が出来る様にしている。	コロナ禍で、外出は控えているが、お花見や御所湖見学、紅葉狩りドライブを実施している。天気の良い日は、事業所周辺を散歩したり、サンデッキでシャボン玉をしたり、利用者の気分転換やストレスの発散に努めている。例年、隣接の畑に野菜を植え、草取りなどの作業をしていたが、今夏は暑すぎてホールで過ごす利用者が多かった。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームさくらの家 東ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で現金を管理している方はおらず、ご本人が望まれた物等はご家族に確認し購入したり届けて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があった際や、プレゼントやお手紙が届いた際は直接電話をお繋ぎしてお礼を伝えたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じて頂ける様な装飾を心がけている。天候に合わせ、照明や室温に留意し、食席の配置にも気を付け入居差様が心地よく安心して生活できる様にしている。	共用のホールは、食卓、椅子、ソファ、テレビなどがゆったりと配置されている。天井が高く、天窓からの光を取り入れたり、暖色系の照明で明るく、夏場には、エアコン(2台)、冬場には、加湿器やガスヒーターを備え、安全で過ごしやすい生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチンカウンターや食席、サンデッキ付近のソファ等入居差様の状況に合わせ快適に過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や食器類等、ご家庭で使用していた馴染みの物をお持ち頂いたり、ご家族からのプレゼントや写真などを飾り居心地よく過ごせるように工夫している。	居室は、ベッド、収納棚、ロッカー、エアコン等が備え付けてあり、明るく清潔感のある生活環境である。ラジオや家族の写真が飾られ、位牌・お鈴を持ち込み毎日お参りしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりの他、杖や歩行器を使用して歩行される方が安全に移動できる様に椅子やテーブルを配置している。お手洗いや居室がわかる様に目印をつけて安全に移動出来る様にしている。		